

# よきもの わかもの ばかもの

〜松江駅長奮闘記

<3>

松江の街を歩くと、どこがらんとして薄暗く、待合室のベンチで長い間、座りっぱなしのお年寄りと違うのは、喧騒も活気が目立つ。それが今から2年前の松江駅の姿であった。

平日朝の松江駅は、なかなか活気がある。列車からバスに乗り継いで通勤されるお客さまが多いからだ。「おはようございます」。コンコースであいさつすると、多くの人が会釈してくださる。都会の駅長では味わえない感動を覚える。

しかし、昼間と週末は、

私が着任して半年余がたったところ、あるおじさんが、ひよこひよここと駅長室を訪ねてこられた。街の活性化に随分と頑張っておられると聞いていた。

おじさんは「地元アーティストの浜田真理子さんのこの曲は、この街に似合う、とってもいい曲です。どうか聴いてください。」

## 構内待合室をステージに



以前のJR松江駅構内の待合室（松江市朝日町）

### 駅の「よきわいびい」始動

「さい」とおっしゃり、駅長室でその曲をかけたし、目をつぶって静かに聴き終え、一息つくくと、私の口からは、この街に期

「分かりました。ぜひ、駅でかけましょう。ただ、その前に浜田真理子さんに、駅で生演奏をしていただくというのはどうでしょう」「そのために、

駅にステージをつくりましょう。私には、京都駅ビルでイベントの企画を担当した経験があります。どうぞご安心を」おじさんは、目を丸くし「ありがとうございます。期待しております」と言ってお帰りになった。

駅長応接室の扉を開け、同じことを周囲の社員にも話した。社員は皆、もっと喜んでくれると思っただが、おじさん以上に目を丸くし、不思議そうに言った。「駅長、それって本当に、松江駅で、ってことですか？」

街の人も、この会社の社員も、この「よきものわかもの ばかもの」の発想に、果たしてついてきてくれるだろうか。少しだけ不安になった。（JR松江駅長・内山興）

第2、4月曜掲載

